

置き配バッグ市民モニター 1か月アンケート結果

令和6年12月



1カ月経過利用状況アンケート調査

置き配バッグを設置することで再配達がどれだけ削減でき、脱炭素に繋がったかを、置き配バッグ配布から1カ月経過して、アンケート調査を実施しました。

1カ月経過利用状況アンケート概要

調査期間	令和6年11月1日～11月30日
調査方法	インターネットアンケート
対象者	モニター1,500世帯（辞退者等を除く）
調査内容	①利用状況調査 （宅配物の受取回数、受取方法ごとの回数） ②脱炭素、環境への意識変化調査 ③取組みへのご意見
回答期限	12月2日～12月9日

今回は
①利用状況と
③の多かったご意見を
紹介します。
詳細な報告は2月を
予定しています。



① - 1 利用状況回答集計

アンケート回答数：1,115人（回答率74%）

宅配物総数 5,115個（1世帯当たり平均4.5個/月）

対面受取 2,305個

OKIPPA受取 2,243個

再配達で受取 298個

指定場所受取 269個



① - 2 再配達の削減効果

対象荷物の 88.2% の再配達を抑制できた結果となりました

OKIPPA受取 2,243個 (A) 再配達にならなかった回数

再配達で受取 298個 (B)

$$\text{再配達抑制率} = \frac{A}{A + B} = 88.2\%$$



③ご意見の紹介

再配達が少なくなり便利、荷物を気にせず外出できるといった意見も多くある一方で、付けることで不在と分かるといった防犯に関するものや、バッグに入れてなかった、配達員の手間が掛かるのではといったご意見もありました。

【ご意見例】

【利便性】

- ・ 常時設置することで、不意な配達があった際、受け取ることができ、便利でした。

【防犯面】

- ・ これがあることで、留守をアピールすることになるのかなと気になりました。

【疑問】

- ・ 配達員の方が袋を広げて品物を中入れるのは手間ではないかなと感じました。

ご意見は、この取組みを一緒に推進する市内の配送事業者3者（佐川急便（株）宗像営業所、日本郵便（株）宗像郵便局、ヤマト運輸（株）北九州主管支店）と共有し、より良い取組みとなるよう進めていきます。

たくさんのご意見ありがとうございました

今回のモニター及びアンケート回答にご協力いただき、
ありがとうございます！

次回の最終アンケートは1月初旬を予定しています。

引き続き、再配達削減のほか、身近にできる取組で
ゼロカーボンシティ実現に挑戦していきましょう！



ZERO CARBON CITY 2050

